

遠足のしおり



2023年9月20日(水)

秋の伊勢原 彼岸花の里 と 日向薬師

いろは食堂でお食事会・・・

杉並退職者の会 ハイキングしおり

なまえ

伊勢原「彼岸花の里」と「日向薬師」

と き: 9月20日(水) 雨でも行きます

集 合: 8時20分 小田急西口 1階(地上階)改札口
(8:33発 急行:小田原行にのります)

コース: 新宿発 8:33 ⇒(小田急) 伊勢原着 9:37
伊勢原駅前発 9:50 (バス)⇒ 日向薬師バス停 10:15
* 宝城坊(日向薬師)見学 往復30分 片道550メートル
参道は石段: 約74メートル上る。
(足の弱い人はバスしてバス停で合流します)
日向薬師バス停発 11:20 ⇒ 伊勢原駅前着 11:45
伊勢原発 11:55 (小田急) ⇒ 渋沢着 12:09

*お食事と交流会

お馴染み「いろは食堂」訪問

大山・丹沢の山の幸 相模・駿河の海の幸

* 今年はどうな献立か・・・楽しみです。

飲み物は生ビール・丹沢冷やおろし・・・???

14時30分ころ解散

* 希望者はちょっと歩いて、落花生店「豆はな」へ……

試食して、お茶をいただいて、おみやげ買ってください。

費 用: 交通費 新宿から 2240円 食事代 4000円+飲み物代

MEMO

小田急 小田原線 急行停車駅と時刻

新宿発 8:33 ⇒ 代々木上原着 8:39 ⇒ 下北沢着 8:12
 ⇒ 経堂着 8:46 ⇒ 成城学園前着 8:50 ⇒ 登戸着 8:54 ⇒
 向ヶ丘遊園着 8:56 ⇒ 新百合ヶ丘着 9:03 ⇒ 町田着 9:11
 ⇒ 相模大野着 9:15 ⇒ 海老名着 9:25 ⇒ 本厚木着 9:29
 ⇒ 愛甲石田着 9:34 ⇒ 伊勢原着 9:37

*改札を出て右が北口(トイレあり)

バス乗り場 3番 日向薬師行発 9:50 ⇒ 着 10:15

バス 日向薬師発 11:30 ⇒ 伊勢原駅前着 11:45
 伊勢原発 11:55 ⇒ 鶴巻温泉着 11:58 ⇒ 東海大学前着
 12:00 ⇒ 秦野着 12:05 ⇒ 渋沢着 12:09
 (新松田着 12:16⇒ 開成着 12:20⇒ 小田原着 12:28)

帰りの 渋沢発、新宿行き 急行電車の発車時刻は

- ◆14時 13分発 33分発 53分発
- ◆15時 13分発 33分発 50分発
- ◆16時 14分発 23分発 44分発

いろは食堂
と
豆はな



「伊勢原」の地名の由来は・・・?

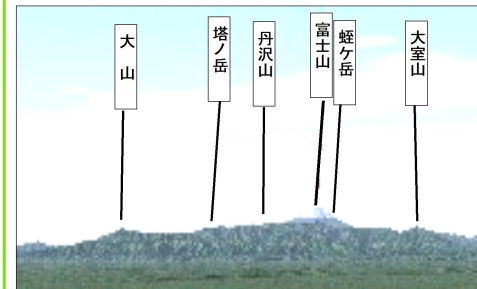
江戸時代初期、大山参りに来た伊勢山田の曾右衛門らにより、千手ヶ原が拓かれ、やがて伊勢の国の人々がこの地に住みついたことから伊勢原の地名になったと言われている。

伊勢原市は、面積:55.5平方キロメートル(東西9.98キロメートル 南北7.28キロメートル)。

市の最高峰、大山は海拔:1251.7メートル。東京からも富士山の左はじに見える山容は親しまれている。中腹と山頂に阿夫利神社があり、江戸期を最盛に「大山詣り」が多くの庶民によって行われた。

「大山詣り」は、鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を呼び起こし、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れた。大山詣りは、今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り、山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき、大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。

東京から見える 大山・丹沢・富士



大山山頂から江の島



伊勢原は「大山詣り」の舞台



関東の各地から、大山をめざした人々が通った道を「大山道」(おやまみち)(おおやまどう)と言います。

その代表的な「大山道」を「すごろく」にしたものを最終頁に載せました。(世田谷区HP参照)

赤坂をふりだしに、渋谷から三軒茶屋・二子・厚木・愛甲を経て伊勢原の宿坊に到着するというものです。朝ドラ「らんまん」でも「渋谷は田舎だが大山詣りの人が沢山通る」と紹介。この双六、拡大コピーして、お孫ちゃんと遊んでください。

「大山詣り」といえば、落語でお馴染みです。あらすじも載せましたのでご覧ください。



落語「大山詣り」

と、ある江戸の庶民たちが、大山参りに行くことになったが、毎年酒乱の

熊五郎が迷惑をかけるため、道中で酒を飲んで暴れた者は坊主にするという約束で出発した。

行きは何事も問題なくすんだが、帰りの神奈川宿の宿屋で泥酔した熊五郎が風呂場で暴れるという事件を起こす。仲間たちは約束通り、寝入った熊五郎の髪を剃り上げて坊主にすると、彼を置いて朝早く出立した。

朝、宿の女中に起こされて、目を覚ました熊五郎。女中に「坊さん」と言われ、「坊さんと言うのは頭に毛の無い人を言うんだ。俺の鬘はこの通り・・・」と言って頭をさわってビックリ。

坊主にされていることに気づくと、早駕籠で仲間より先に江戸に帰り着く。留守番をしていた仲間の女房たちに、仲間たちが帰りに金沢八景で船事故に遭って自分以外は全員溺死してしまい、自分は弔いのために先に帰ってきたんだと嘘をつく。女房たちは信用しない。

「生き死にのことで冗談なんか言うものか・・・」と言ってかぶっていた手拭いを取るとつるつるの丸坊主。「見栄っ張りの熊さんが坊主になったんだからこれは本当だよ・・・」女房たち泣き崩れ、自分たちも弔いのためにみんな髪を剃ってしまう。大きな数珠を手に入れてきて、みんな百万遍がが始まった。

そこに仲間が帰ってくると・・・「亡者が帰ってきたぞ。」と八五郎。

長屋は丸坊主の尻さんだらけ。「まるで冬瓜船が着いたようだ。」でも、よく見ると、自分達の女房・・・事態を知って激怒する。

その中で年長者が、「めでたいことだから、怒るに及ばない」と仲間を諭す。どうしてだと尋ねられと・・・。

「お山は晴天、家へ帰ればみんなお毛が(怪我)無くっておめでたい。」

古刹：日向薬師の歴史

彼岸花
群生地案内図
— 一般社団法人伊勢原市観光協会、たかべや緑の里農園 —

かながわの花の名所 100選

バス終点から高低差約74Mの石段をのぼる。途中で仁王門がある。

●みかん狩り 10月中旬～12月上旬	●お楽しみ
●岩田正雄 0463-95-2640	●路上に車を止めないでください。
●秋山忠雄 0463-95-2415	●ゴミ・飲みガラを捨てないでください。
●船岡 0463-95-1395	●アゼを踏み荒さないで下さい。
●西藤 0463-95-1450	●耕作地に入らないでください。

交通(バス)
小田急線伊勢原駅北口
③番乗場 日向薬師行き
約25分終点下車
片道280円

～伊勢原市日向エリア～ 2018年9月



日向薬師は、元の名を日向山霊山寺(ひなたさんりょうぜんじ)と称した薬師如来信仰の霊場で、関東地方では有数の古寺である。本尊は平安時代前期に作られた鉦彫り(なたぼり:像の表面にノミ目を残して仕上げる彫刻様式)の薬師三尊像である。また宝物殿には阿弥陀如来や四天王、十二神将など23体の仏像が納められている。これらを含め 国の重要文化財9件、神奈川県および伊勢原市指定の文化財を多数所蔵する。

柴折薬師(高知県大豊町)・米山薬師(新潟県上越市)とともに「日本三薬師」に数えられることもあり、峰の薬師(相模原市)・高尾山薬

師院・新井薬師とともに「武相四大薬師」として信仰を集めており、一時期は勅願寺になり、江戸時代末期には12坊を数えたと言われる。

寺伝では霊亀2年(716年)、行基の開山という。寺に残る梵鐘(暦応3年・1340年鑄造)の銘文や、鎌倉時代の史書『吾妻鏡』も当寺を行基の草創としており、行基草創伝承は鎌倉時代からあったことがわかるが、境内からは奈良時代にさかのぼる寺院跡は発掘されておらず、実際の創建は10世紀頃と推定されている。

が様式上この頃の作品と推定されることから、霊山寺の伽藍が整備されたのは10世紀頃と考えられている。

日向薬師の文献上の初見は、平安時代の歌人・相模の歌「さして来し日向の山を頼む身は目も明らかに見えざらめやは」であるとされている。相模は相模守大江公資(きみより)と結婚して寛仁4年(1020年)、夫の任地である相模に下向、万寿元年(1024年)には帰京しているので、前出の歌はその間に詠まれたものと思われる。このことから、日向薬師は平安時代後期には霊場として栄えていたことがうかがえる。

鎌倉時代の史書『吾妻鏡』にも日向薬師にかかわる記事が見られる。建久3年(1192年)6月9日条には、源頼朝の妻・北条政子の安産祈願のために読経をさせた寺院の一つとして霊山寺の名が見える。(この時生まれた子が後の源実朝)また、建久5年(1194年)8月8日条には、源頼朝が娘の大姫の病平癒祈願のため自ら「日向山」へ参詣したとの記載がある。(鎌倉武士多数が同行した)

近世の地誌『新編相模風土記稿』によれば、近世の日向薬師には別当坊の宝城坊を含め13坊があり、それ以外にすでに廃絶した坊もいくつかあったと記載されていることから、往時の規模がしのばれる。また、山内には七所権現社や東照宮などがあり、神仏習合の信仰が行われていた。

(明治の 廃仏毀釈 の影響が大きかった)



今回のハイキング参加者

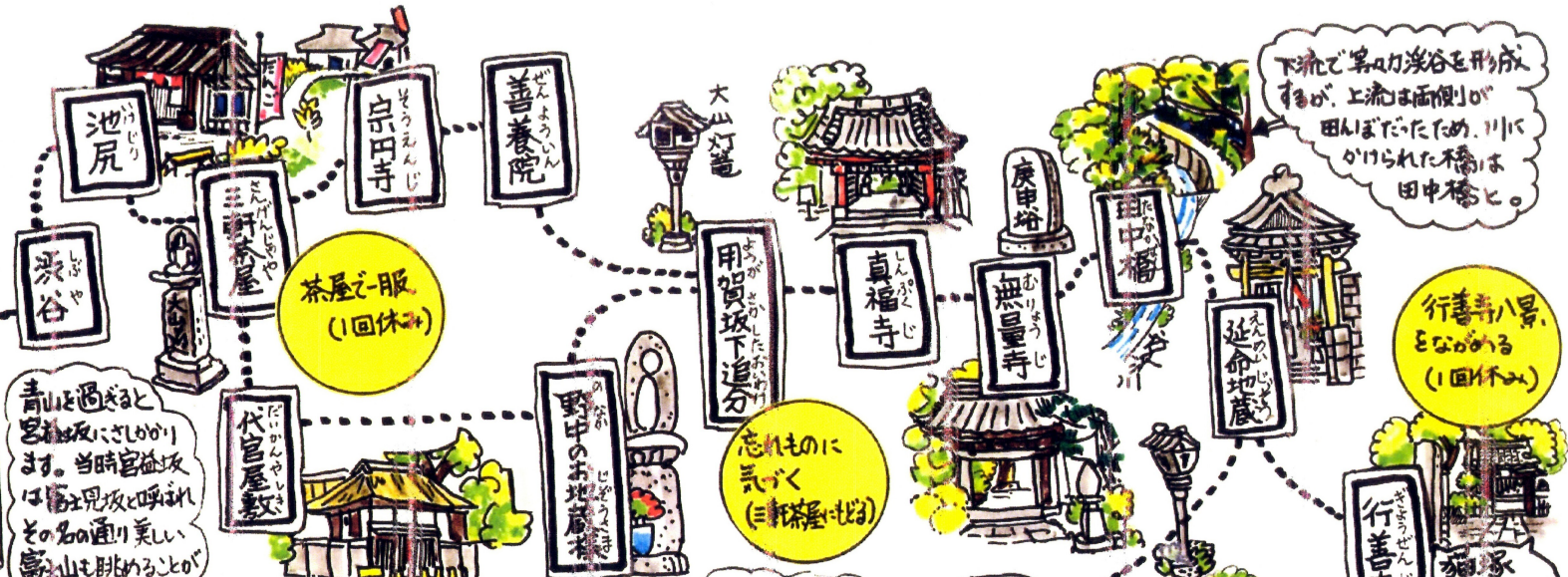
1	H・S	新宿	先達	7	K・T	新宿	
2	T・M	新宿	司会	8	T・I	新宿	
3	C・M	新宿		9	K・T	新宿	
4	T・T	新宿	会計	10	R・N	下北	
5	M・Y	新宿		11	K・K	登戸	会長
6	Y・K	伊原		12			

- *A Iさんから 今回参加できません。春には参加したい です。みなさんによろしくお伝えください。
- *HKさんから 残念ですが参加できません。みなさんに どうぞよろしく……。 (皆勤賞のKさん・次回よろしく)
- *杉退教たより…9月号に「ハイキングの報告」400字程度…どなたか、寄稿をお願いします。(Iさんに決定！)

大山みち歩き



大山詣りは信仰とともに観光という意味合いもあり、特に江戸や関東の庶民に大変人気がありました。赤坂御門を出発点に。



青山を過ぎると宮益坂にさしかかると。当時宮益坂は富士見坂と呼ばれ、その名通り美しい富士山を眺めることが出来ました。

忘れものに気づく (三軒茶屋・代官屋敷)

行善寺八景、と名がめる (1回休み)

筆塚 墨・筆・硯の墓

行火坂 江戸時代、火の神様を祀るため、行火坂と名づけられた。

豪雨のため川を渡る (2回休み)



別名雨乞いの滝、雨乞いの儀式ではこの滝の水が使われる。

雨乞いのお詣りに、その前に精進落とし、更に登山後山頂と祈願し、お神水を受け取り、家へと帰ります。

東海道は大名や武士が多く利用していたため、商人は大山道を利用し、タバコ、鮎、生糸炭など相模地方の物産を江戸に送る道もあり、沿道には人馬継ぎ立場として伊勢原、厚木、国分、下鶴間、長津田、花田、溝口、二子などがありました。江戸中期、庶民は積を作った富士詣、御旅山の御旅詣、大山阿夫利神社の大山詣など信仰と物見遊山の友が盛んになりました。

大山街道の要所、要所には大山火籠が、逆ら道標が白旗末の遠来の客も歓迎した。今でも当時の大山街道と関係のものとして、道標を見ることが出来ます。

鶴籠に乗って国分まで進む

二子溝口宿に2泊する (1回休み)

発行日 2008.11.1
 絵 サロン兼補 奇縁 晋子
 発行元 玉川総合支庁
 大山みちおこしPT
 問い合わせ 玉川総合支庁地域振興課
 03-3702-1603